



大分市立城南中学校 PTA 家庭教育学級ここみ

「なんで？」は疑問文？否定文？

「ここみ」の第4回研修会にお呼ばれました。今回は、参加された皆さんの日ごろ思っていることを中心に話し合いました。

家庭でも学校でも、何か問題があるとその原因を追究しますね。その際「なんで遅刻したの？」「なんでそんなことやったの？」と、子どもに「なんで…」と聞くことが多いですが、言われた子ども達はどんな気持ちでしょうか。遅刻をした理由を聞かれたので「寝坊したらか」「親が起こさなかったから」と正直に言っても、「中学生にもなって」「親のせいにするのか」と否定されるから、子ども達は黙ってしまい会話が成立しなくなります。

他にも、「わかった？」という言葉も、こちらの価値を押し付けている要素が強く、会話を切ってしまう言葉だという意見も出されました。

今はどんな気持ち？

問題の原因追求に時間をかけるよりも、これから同じような過ちをしないためにどうすれば良いか話すことが大切です。その際、保護者や教師が押し付けるのではなく、子どもに考えさせる必要があります。

対話をする前には、そのような目的を伝えることに加え「何を言ってもいいよ」「質よりも量だから思ったことをたくさん言ってね」「5分だけ話そうか」等、対話における約束を確認することが大切です。

次に、保護者や教師は子どもの気持ちを引き出すような聞き方が重要となります。私の場合は、「今は、どんな気持ちかな？」から始めます。

「(遅刻をして) 恥ずかしい」「情けない」「ちょっと気まずいかな」「教室に行きにくい」・・・等、人それぞれ異なります。中には「別にい。」等もありますが、ぐっとこらえて「そうなんだ。そんな気持ちなんだね。」と、子どもの言葉を繰り返しながら、とにかく対話を切らないように心がけます。「この人は約束を守る人だ」「聞いてくれる人だ」と思われ信頼されなければ、本音を言ってくれません。

対話は弾んできたら「これからどうなりたい？」と、目指す姿をイメージさせたり、「そのためには何をやる？」と、子どもに自己決定するような質問を行います。

そして、どんなことでも子どもが自分自身で決めたことは認めることです。それが小さな目標でも何もしないよりはずっと良いことですから。



何か手伝うことはない？（目標協働）

子ども自身が決めた目標を共有するためには、保護者や教師として手伝うことが無いかを確認します。それは、達成すれば共に喜び合え、できなければ共に反省するためです。このように、目標協働達成は学校だけでなく子どもの目標に対しても有効ですね。

保護者の方々の本音を聞くことができ、私自身も大いに学びました。そして、これからのPTAの在り方のヒントになる有意義な時間でした。ありがとうございました。



NO.500 2021年11月 大分市立城南中学校PTA家庭教育学級

共助の気持ち

一人で悩んでいることも、視点を変えれば気持ちが楽になることも。大人も子どもも同じです。

